

江戸から学ぶ地方創生

福岡県立京都高等学校

地方創生とは

2014年第二次安倍内閣発足時に発表された“東京の一極化集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけることを目的とした政策”

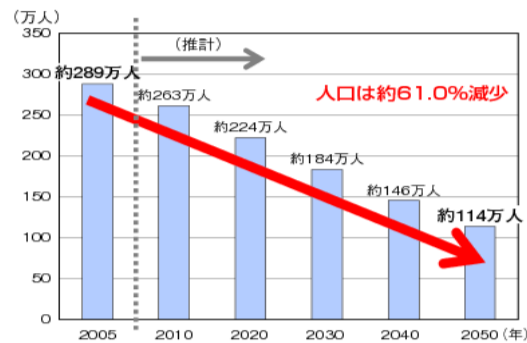
1. 背景・目的

○研究動機

- ・地元を長期的に住むことのできる町にしたい
- ・待機児童や渋滞など過密による問題を解決することもできる

○地方過疎の現状

政策発表より8年経過した現在、人口は減っており、**今後も減少する**見通しとなっている。



要因:若者の流失

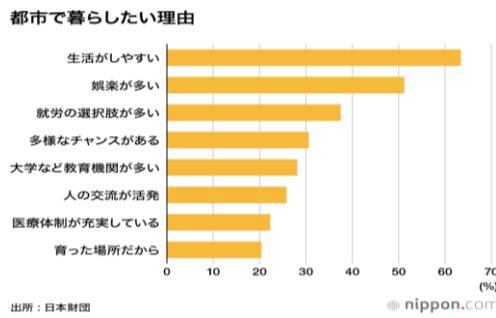
○若者流失の原因

- ・利便性の重視
- ・**地元雇用の少なさ**

行橋市でも課題となっていることがインタビューにより分かった

つまり

課題達成のための POINT①



8 働きがいも経済成長も

若者が**地元に残れる**ような**雇用**を生み出すことが課題達成につながる！！

11 住み続けられるまちづくりを

2. 研究手法

○研究手法決定までの過程

地方創生を行う際に**留意すべき点**とは？

→現時点での地方創生は発展途上であり参考例が少ない

例)「青森県青森市の大型商業施設」地元ならではの魅力がなく他地域との**差別化ができていない**

「福島県会津若松市の地域限定電子マネー」**認知度の低さ**、**加盟店の少なさ**から利用されない

⇒以上のような**独自性のなさ**、「**政策と住民意識の齟齬**」が原因の失敗が実は過去にもあった！！

江戸時代における藩政改革

...それが

藩政改革とは
参勤交代や飢饉自然災害などによる財政のひっ迫を改善するために諸藩が施した改革のこと

類似した失敗点をもつ改革ならばその**成功点も流用**できるのでは？

5. 今後の課題

調べていくうちに地方創生は、国のもつ公的力と住民の持つ意欲と行動力の二つが無いと成り立たないということが分かった。そのため今回は政策や組織的なイベントの視点から研究を進めていったので個人でできる対策への言及が不完全であったと思われる。その上、既存の取り組みの奨励だけでは決して当初目的としていた雇用の爆発的増加は不可能であり、何より今回取り上げた取り組みが全ての地域で有用であるとは断言できない。一つの施策だけをあらゆる地域で続けることは二番煎じに他ならず、独自性の重要性和反する。今後はより具体的に個々の地域の課題点や特色を調べ様々な施策について研究していくべきだと感じた。

参考文献

- ・『総務省ホームページ』
(<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc112130.html>, 2021/9/29)
- ・大矢野栄次(2017年)「藩政改革と幕藩体制」『経済社会研究』第57巻(第3.4号併合):91p~114p
(2018年)「米沢藩の財政改革と上杉鷹山」『経済社会研究』第58巻(第1.2号併合):21p~49p
- ・『やっぱり都会で暮らしたい—18歳意識調査:人口集中は正に必要なのは仕事の確保』
(<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h00830/>, 2021/11/25)
- ・幕末の雄藩を作った諸藩の財政「藩政改革」この政治再建を歴女がわかりやすく解説
(<https://study-z.net/100051918>, 2021/11/26)
- ・平池久義(2010年)「米沢藩における上杉鷹山の藩政改革:組織論の観点から」『下関市立大学論集』第54巻(第1号):p1~p17
(2003年)「長州藩における安政の改革:組織論の観点から」『下関市立大学論集』第13巻p1~p17
- ・『地方活性化ビジネス(町おこし)の成功例と失敗例から学ぶ成功の秘訣とポイントとは?』
(https://corporate-labo.com/tihoukassseika_business/#i-2, 2022/2/16)
- ・『歩くことを楽しむ | 日本フットパス協会』
(<https://www.japan-footpath.jp/>, 2022/2/17)

3. 結果

○失敗例

- 1.過度な重税政策 2.俵約令,奢侈禁止令

ぜいたくの禁止

→1.目先の利益の優先,**根本的解決**×

農民(住民)の生産意欲を欠くため収入が減り逆効果

- 2.プライドを重視する武士からの反感

政策と意欲のギャップ,実際に行う人物からの協力を得られない

○成功例

「長州藩の場合」

「米沢藩の場合」



専売制の蠟の自由取引化¹
かわりにたくさん売って
売上を税として納めてね²



新しく土地を開墾したら²
5年間税を免除するよ¹

+当時の主要作物である米作りに
適さない地理的不利にめげずに
別の作物の生産奨励³

課題達成のための POINT②

失敗例と両藩の共通点より、地方創生に必要なのは

1. **実行者の意欲を駆り立てる**内容であること
2. **即効性よりも長期的な利益**を見込む施策
- 3.既に地元の持っている**特色を生かす独自性のあるもの**

4. 考察



POINT①②より踏まえた上で推進すべきだと思う有用な政策として「**フットパス**」が挙げられる。

フットパスとは
観光資源に頼らず、地域のありのままの小道や生活圏の中を歩き
現地での交流・体験を行う新たな観光の形のこと

その理由は

- 1.歴史的建造物などではなく人の生活環境こそが魅力なので、何も無いと思っ
ている地域こそ向いている
→**他の真似ではない独自性**
- 2.ガイドは地元の人担当、本来は体験できないことや地元の人しか知らない
ことを知ることができ特別感を味わうことができる
→**地元の人活躍できる**,交流することで知り合いが増え**再度訪れる理由**になる
- 3.単なる旅行とは違い「歩く」ため必然的に時間がかかり飲食店や店を利用する
→**経済の活発化**,**雇用先の安定的確保**
- 4.地元へ人が訪れることで住民が地元の魅力の再発見をする
→**自信を持つことができ**,**自ら意欲的に地域の景観改善に取り組む**

個人でできることは？

- 1.SNS等を用いて**活動の認知度を高める**
またフットパスの最中は積極的に地元の人へ声かけを心がけることも認知度向上に有用
交流人口を増やすことも目的であるため、それにもつながる
- 2.活動に参加せずとも上記4のような**自ら町の魅力を向上させる**(家の周りを綺麗にしてみる,花壇を整えるなど無理のない行動であることが意欲維持のためにも重要)

経済の発展

人が訪れる

住民の意欲 UP

実際に参加した感想(行橋市まちあるき,ガイド養成講座)

目的とする観光地へただ歩くのではなく散歩の延長,寄り道という感覚があった。普段は通り過ぎる水路や立て看板,電柱一つにも町の発展してきた歴史があり,全く関係の無いと思っていた場所同士につながりを見つける楽しみがあり町全体が一つの物語のように感じられ愛着が湧いた。ガイドをするにもより町を知る必要があり,他の参加者の方と交流し考察を深める行為には地域の団結力を高める効果もあるのではないかと感じた。